

防除所レポート

【県央地域におけるヒメトビウンカのイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率について】

例年、県西・県南地域で調査しているヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率（以下、保毒虫率）を、県央地域2地点においても調査を行いました。

その結果、令和6年は、2地点とも、農業研究所作成のマニュアルにおいて、育苗箱施用等による薬剤防除を推奨する保毒虫率5%以上の高い値となりました（表）。

以下の防除対策を参考にして、イネ縞葉枯病の防除対策を行いましょう。

表 ヒメトビウンカ越冬世代幼虫のイネ縞葉枯ウイルス保毒虫率

地域	調査地点	保毒虫率 (%) ¹⁾	
		令和5年	令和6年 ²⁾
県央	水戸市 杉崎町	4.3	6.4
	那珂市 鹿島	4.8	7.4

1) 水田畦畔等より採集、簡易ELISA法により検定

2) 採集日：令和6年2月2、7、9日 検定日：令和6年3月6日

サンプル数：各地点188頭

【防除対策】

- ①本病の発生の多い圃場ではヒメトビウンカ防除を目的とした薬剤の育苗箱施用を行う。
- ②本病の発生の多い圃場で、育苗箱施用を行わなかった場合は、6月中下旬頃のヒメトビウンカ幼虫を対象とした本田防除が有効である。
なお、5月下旬発表予定の病害虫発生予報6月号で本田での防除適期等の情報を提供する予定である。
- ③保毒虫率を高めないために、収穫後には、地域全体で早めの秋季耕起や冬季の畦畔除草等の耕種的防除を徹底する。
- ④縞葉枯病抵抗性品種は本病をほとんど発病せず、保毒虫率を徐々に下げる効果が期待できるため、抵抗性品種の導入を検討する。

(令和6年3月21日発表 病害虫速報 No.3 参照)